

2018 年 度 事 業 報 告 書

法人の名称 NPO 法人となりのかいご

1 事業の成果

「家族を大切に思い一生懸命介護するからこそ虐待してしまうプロセスを断ち切る」をミッションに掲げ、より多くの方に支援を届けつつ、一つひとつのケースにより深く関わることができていることが、2018年での最大の成果だと考えております。

昨年から1社加え、大手企業7社を支援させていただき、事業収益の安定とともに、介護者支援ツールの開発、業務支援ソフトの構築、ソーシャルワーカー勉強会の運営など、先行投資ができるような体制となってまいりました。

介護セミナーでは、これまでの初心者向けの内容から、「家族介護の会社への伝え方」「両立の成功事例・失敗事例」「ケアマネジャーとの信頼関係の構築方法」「老人ホームの選び方」など実践的な内容での開催しております。また、介護に悩む当事者だけではなく、管理職向けの必須研修として介護セミナーを行い、会社全体でのリテラシー向上をはかりより早く介護相談につながる仕組み作りに取り組んでおります。

これにより、日々の介護疲れから、すでに相談するチカラを失っている方が介護相談につながる機会が増え、虐待防止に寄与する支援につながっております。また、障害者雇用として働いている方の介護相談、兄弟が障害や引きこもり状態での介護相談も増えており、制度横断的なワンストップの相談支援サービスに進化しつつあります。

現在の課題について、昨年のソーシャルワーカー育成から、現在行っているサービスの支援プロセス分析からのツール開発であることが分かりました。隔月開催しているソーシャルワーカー向けの自主勉強会から、当法人が実践しているソーシャルワークへの興味関心が高いこと、その実践者は十分に確保できることは、実証されたと考えております。現在、企業で実践しているサービス（介護セミナー、個別相談、ガイドブック作成）は、ソーシャルワークの基本的な技法の応用となっております。そのため、実践的なツールが開発することができれば、企業内で働くソーシャルワーカーを増やすことができ、虐待防止の有効な社会資源となります。

家族による高齢者虐待を、家族を大切に想うがゆえに自身の生活に犠牲は払った末の出来事だとするならば、家族介護のために仕事を慢性的に制限する、また仕事を辞める、はビジネスパーソンにとって、人生の犠牲を払う介護の最初の一步となります。この段階で福祉的支援を届け、直接介護ではなく安心して任せられる介護体制作りによる親孝行の方法を提示することで、家族による高齢者虐待防止につながり「誰もが自然と家族の介護に向き合える社会」の実現がまた近づきます。引き続き、皆様のご支援をいただければ幸いです。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 介護に関する支援事業

ア 介護セミナー事業

- ・内容 介護に直面していない方向けに、介護の現状について啓発を行う
- ・日時 通年
- ・場所 東京都を中心とした企画室など企業内会議室など
- ・従事者人員 2人
- ・対象者 介護に直面していない一般市民・団体等 2,035人
- ・支出額 3,015,779円

イ 個別相談事業

- ・内容 介護に直面している方向けに、介護に関する悩みをメール等で相談を行う
- ・日時 通年
- ・場所 当法人事務所、対象者の職場・自宅など
- ・従事者人員 2人
- ・対象者 介護に関する悩みを抱える一般市民 379人
- ・支出額 1,446,941円

ウ 個別訪問コンサルティング事業

- ・内容 介護環境の改善が必要な方向けに、必要な知識の提供と提案を行う
- ・日時 通年
- ・場所 対象者指定の場所（自宅、老人ホームなど）
- ・従事者人員 1人
- ・対象者 介護環境の改善が必要な一般市民 6人
- ・支出額 868,118円